

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																															
日本工学院八王子専門学校	昭和62年3月27日	山野 大星	〒 192-0983 (住所) 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111																															
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																															
学校法人片柳学園	昭和31年7月10日	千葉 茂	〒 144-8650 (住所) 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111																															
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																													
工業	工科技術専門課程	ロボット科	平成27(2015)年度	-	平成26(2014)年度																													
学科の目的	デジタル技術の進歩によって、私たちの周りにはコミュニケーションロボットや、パーソナルロボットと呼ばれる今までになかった新しいタイプのロボットが次々に登場しています。かつては、工業用に限定されていたロボットの用途が多様化し、ロボットは産業界を牽引する大きな可能性を持っている分野として強く期待されています。本学科は、産業界からの意見をカリキュラムにフィードバックをして、産学連携プロジェクトや特別講義、ロボット競技会などから、実践的な技術が身に付くようなカリキュラムを用意し、「ロボットを創る(製作)、操る(制御)、楽しむ(応用)」を基本コンセプトにロボットについてあらゆる角度から学ぶ学科です。ロボットを製作し、制御し、応用するという明確な目標の中で、電子・機械など様々な工学技術、情報技術(IT)の実践的なノウハウを体得し、工業、情報、サービスなど広範な産業界に貢献しうる人材を育成します。いま注目のAI(人工知能)やIoT(Internet of Things)などの技術と活用についても理解を深め、今後エンターテインメントや福祉・介護をはじめ医療やメンタルヘルス・リハビリテーションといった人間と共存するシーンで活躍するロボットのエキスパートを養成します。																																	
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	産業用ロボット特別教育(教示等の業務、検査等の業務)、第二種電気工事士、品質管理検定 中退率:2.0%																																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																											
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,710 単位時間 単位	780 単位時間 単位	0 単位時間 単位	1,110 単位時間 単位	0 単位時間 単位	60 単位時間 単位																											
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率																														
80人	51人	5人	10%	2%																														
就職等の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>■卒業生数(C) : 29人</li> <li>■就職希望者数(D) : 29人</li> <li>■就職者数(E) : 28人</li> <li>■地元就職者数(F) : 18人</li> <li>■就職率(E/D) : 97%</li> <li>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 64%</li> <li>■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 97%</li> <li>■進学者数 : 1人</li> <li>■その他</li> </ul> <p>(令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) ロボット業界: 鈴茂器工、三幸社 精密機器: 芝浦エレクトック、富士航空電子、三幸機械 機械加工: マテリアル 電子機械: イチコーエンジニアリング アウトソース系: 平山、アドソラー、ボルックステクノ、プライムエンジニアリング 公務員・NPO・インフラ系: CDPジャパン、千葉県(技術職)、あすか創建、国産機械</p>																																	
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 有</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 特定非営利活動法人 私立専門学校 等評価研究機構 受審年月: 平成26年3月 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																	
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.neec.ac.jp/department/technology/robot/">https://www.neec.ac.jp/department/technology/robot/</a>																																	
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>300 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>300 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>300 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>300 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位</td></tr> </table>						総授業時数	300 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	300 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	300 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	300 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総授業時数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位
総授業時数	300 単位時間																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	300 単位時間																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																	
うち必修授業時数	300 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	300 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																	
総授業時数	単位																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																																	
うち必修授業時数	単位																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位																																	
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>1人</td> </tr> </table>						① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計	3人		1人														
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2人																																	
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人																																	
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																	
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人																																	
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																																	
計	3人																																	
	1人																																	

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ロボット技術に関わる企業等へのヒアリングを適時実施し、ものづくりの実務に関する知識・技術を調査してカリキュラムに反映させる。さらに、授業科目のシラバスをもとに科目担当教員と企業講師との間で意見交換を行い、授業内容や評価方法を定める。常に授業内容や方法を検証することにより実践的かつ専門的な職業教育を目指す。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、校長のもとに設置する会議の1つである。校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
板羽 昌之	一般社団法人 環境ロボテクス協会理事長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	①
鈴木 康夫	ファミリーレタリース株式会社 専務取締役	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
丹治 信也	株式会社内野製作所	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
倉重 明	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
山田 俊之	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
奥住 智也	日本工学院八王子専門学校 科長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(3月・9月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年10月17日 14:00～15:30

第2回 令和6年03月25日 10:30～11:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

近年は専門学校においても大手企業からの求人が増加傾向である一方で、ロボット分野については大手企業では分業化が進んでおり、いまいちな印象との企業情報。ロボット全体を見るエンジニアとしては、中小企業の方が需要が高い。より実践的な現場に学生達を引率し、体験型の学びを行うよう進めてはどうか。地方自治体がロボットフィールドの運営を進めている(福島、鶴ヶ島、秩父)。まずは入学時の期待と授業内容のGAPを縮め、更なる学生満足度の向上を目指していく。また、課題解決型のプロジェクトを積極的に進める様準備しており、2024年度からは複数の企業連携・カレッジ連携のプロジェクトが進む。学生募集にもしっかりとつなげていく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係			
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。			
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 株式会社ロボットライドとの連携は、AIとIoT技術やリアルタイム制御などをロボット技術の応用に実用的面から複合知識を身につけることでロボット製作による学生作品へのレベル向上していると評価をいただく。 株式会社アトム精密との連携は、ファクトリオートメーションがPLCでは対応が難しくなっているためAIによるロボットを制御する機械学習が今後重要となる。制御の仕方に変化がきている 有限会社岩沢プレス工業との連携ではアルミ板加工において板金組立の仕上がりにおいて学生の作品の向上とデザインの高さを評価される学習内容についてアドバイスをいただく。			
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。			
科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
3D-CAD実習1	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	ロボットや機械の設計に欠かすことのできない3D-CADソフトの使い方や応用方法について実習形式で学びます。	プライムエンジニアリング株式会社
3D-CAD実習2	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	3D-CADを使ってロボットや機械を設計する手法について、さらに詳しく実習形式で学びます。	プライムエンジニアリング株式会社
テクノロジー実習2	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	テクノロジー実習1をベースとしてロボットや機械の仕組みや製作法を理解するうえで必要になる「ものづくり」の基礎技術を実習形式で体験的に学びます。	株式会社プリバテック
ロボット制御実習1	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	ロボットを動かすために必要なコンピュータやプログラムの基礎について実習形式で体験的に学びます。	株式会社プリバテック
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係			
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施または、研修参加教員から情報共有することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。			
(2)研修等の実績			
①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名:	世界デジタルサミット2023 Web3が拓く未来～デジタル変革促す最新テクノロジー～	連携企業等:	日経経済新聞社/総務省/デジタル庁
期間:	令和5年06月5日～7日	対象:	テクノロジーカレッジ教員を対象
内容	ChatGPTに象徴される人工知能(AI)や仮想現実(VR)、メタバース、ブロックチェーン、量子計算、光電融合技術など新しいデジタルテクノロジーの登場により、私たちの生活や仕事が大きく変わろうとしています。世界の有力IT企業のトップや情報通信分野の政策責任者などが議論した、Web3時代の新たな課題や今後の展望を、授業へ活用する。		
研修名:	「NHK技研公開2023」テレビ視聴ロボット	連携企業等:	NHK放送技術研究所
期間:	令和5年6月1日	対象:	ロボット科教員対象
内容	テレビ放送を中心に視聴者と同じ番組やHPを視聴し、ロボット(実物及びPC上)と視聴者が、感動や共感を共有し、ロボットが行動や発言で答えてくれるシステム開発など、最新技術の業界での活用を学び、授業への活用を検討する。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	基礎カリサーチ説明会ならびに、今後の授業、学生対応方針検討	連携企業等:	株式会社進研アド 営業本部 専門学校事業部
期間:	令和5年9月、令和6年1月	対象:	ロボット科教員対象
内容	“基礎カリサーチの結果を元に、夏休み明けからの実施に向けて、学科で重点的に指導を行う点、手法を検討。実施に向けて教員間の情報共有、意思統一を図る。		
研修名:	情報セキュリティ研修(eラーニング)	連携企業等:	株式会社ネットラーニング
期間:	令和5年7月20日	対象:	テクノロジーカレッジ教員を対象
内容	情報セキュリティで守るべきものを維持する為には、バックアップの取得や代替機の用意など、対策が必要である事を認識した。また、情報セキュリティ対策として、一方的な機密性を保持するだけでなく、情報が正確である完全性と必要な時に利用できる可用性においても、担保する必要がある。改めて自身の学科における情報セキュリティを確認し、実業務へと反映をしていく。		
研修名:	SNS教育研修(eラーニング)	連携企業等:	株式会社ネットラーニング
期間:	令和5年9月29日	対象:	テクノロジーカレッジ教員を対象
内容	SNS運用におけるリスク管理をSNSのメリット・デメリットを認識したうえで理解し、適切な活用を行うと共に、学生にもリスク管理をキャリアデザインの一環として教示していく。特に、SNS毎に定められている規約や、著作権などの法を準拠する事は当然であるが、国やSNS毎に異なる機能・文化も理解する必要がある、教員・学生問わずリスク管理を徹底していく。		

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	ものづくりワールド	連携企業等:	RX Japan株式会社
期間:	令和6年6月20日	対象:	テクノロジーカレッジ教員を対象(ロボット科専任教員)
内容	機械要素を中心に業界の動向や技術の方向性を学んだ。導光板(波長選択性あり)による案内板や3Dプリンタ用素材、IoT電力センサ、CAD、AI見積などものづくりに必要な技術のトレンドを確認した。		
研修名:	2024国際ロボット展(iREX2024)	連携企業等:	一般社団法人日本ロボット工業会・日刊工業新聞社
期間:	令和6年09月18日～20日	対象:	テクノロジーカレッジ教員を対象(ロボット科専任教員)
内容	用途が拡大する産業用ロボットの最新システムや 関連 機器の展示のほか、普及が進むサービスロボットなど、ロボット・機械技術の活用法を学習指導へ反映する。		
研修名:	アミューズメントエキスポ	連携企業等:	日本アミューズメント産業協会
期間:	令和6年11月15日～16日	対象:	テクノロジーカレッジ教員を対象(ロボット科専任教員)
内容	機械技術・ロボット技術が多く反映されているアミューズメント機器の動向・最新技術を把握し、学生に身近な機器での学習指導を検討し、今後のカリキュラムへと反映する。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	多層化する専門学校生を最新データで読み解く 中退防止に向けた「入学前」からの学力向上	連携企業等:	株式会社進研アド 専門学校事業部
期間:	令和6年6月25日	対象:	ロボット科教員対象
内容	18歳人口減少を背景に、大学が入りやすくなったいま、専門学校入学者の基礎学力低下がより一層強まるという懸念が顕在化してきました。この為、専門学校入学者の学習習慣の維持・定着という課題解決に向けての取り組みを学び、学生指導に活用する。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。  
学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会会議の中で本校の行った自己点検の評価について  
評価委員からの主な意見は次のとおりで、それについての活用(対応)方法は以下のとおりとなります。

- ・学生に選ばれるための施策(新規獲得)と教職員の採用、満足度向上など課題が多い中ではありますが、意見交換や連携などをして多摩地域の就職に強い専門学校と多摩地区で必要とされる企業で魅力を伝え、発展をしていければと思います。
- ・現場の最前線で活躍する地元企業の専門家に講師をお願いし、ターゲットを明確にした授業などを実施してみてもどうでしょうか。
- ・報告内容にe-ラーニングで就職後に役に立つ学内資格の創設と受験奨励を実施すること、教諭の待遇改善とコンプライアンス順守などがテーマでしたが、業界により職種と担当業務によって必要とされるスキルが違うので、この資格があれば就職に有利というものを一概にお答えすることはできません。弊社では総合職採用としているので、持っている資格によって配属が決まってしまう可能性もあります。業界内の仕事をもっとスペシャリストを必要とする流れになれば良いのですが、今は何でもできる人が重宝されていることも事実です。
- ・教員の待遇改善については、先生のレベル・待遇が上がれば授業の質が上がると想像できますので引き続きこの取り組みを継続していただくことに賛成します。
- ・学生への思いや取り組み、社会のニーズに対応して行こうとされている姿勢に感激しており、マイナス評価をする要因がございませんでした。
- ・ハラスメントについては組織運営の中で非常に重要な部分であり、時代の流れや環境の変化に対応したコミュニケーション能力が求められると思います。教員と学生となると育ってきている時代背景が全く異なり、価値観や考え方もその時代の影響が根本にあるかと思っています。また職員同士も同様です。貴校ではハラスメント研修を実施しているかと思いますが、それが貴校全体に広まって行けば良いかと思っています。ただハラスメントを重要視し過ぎてしまい、変な勘違いをしたり、萎縮したりして、何でもかんでもハラスメントと訴えてこないような状況にして頂ければと思います。バランスが難しいかと存じます。
- ・コロナ禍がスッキリ明けたと言えない状況ですが、コロナ禍の真っ只中で授業を受けられていた学生と、新入生とモチベーションのズレが今後出てこなければ良いかと思っています。教職員の皆様もコロナ前に戻る回復力が大変ではないかと察します。日本工学院八王子専門学校が第一志望の学校となるよう微力ではございますが、何なりとご相談いただければと思います。
- ・全体的に特記事項については、過去3カ年ぐらゐの実績が書かれていければ良いかと思っています。それ以上前のことが書かれていると進化が止まっているような印象を持ちますので、もし記載するのであれば、改善、実施した結果が書かれていると良いと思います。
- ・教職員研修は、実施されるとは思いますがこれからはどうか業務として認めていただけても合わせてお願いします。しかし自己研鑽という形で済ませないようお願いします。
- ・保護者は今後も対面、オンラインなどハイブリット式を継続していただければと思います。
- ・毎回ご説明を伺うたびに着実に学校運営を進展されていることに敬意を表したいと思います。殊にコロナ禍における授業のあり方について学生の要望に沿った改革を着実に図っていることは学ぶ側にとってとても有難いことかと思われまゝ。また会議の折にもお話を伺いましたが対面授業とオンライン授業のハイブリッドにおいて如何に学生とのコミュニケーションを取るかについてはご苦労された成果がよくわかりました。ただフィードバックのやりすぎというものは無いかと思っていますので更なる取り組みを期待しています。高等教育機関の多くが学生募集に苦慮している昨今、選ばれる学校としての特色づくりに精励されているお話も大いに評価されるべきところと存じます。益々のご発展を期待して次回にうかがえることを楽しみにしております。

以上、学校関係者評価委員会において討議された内容を踏まえ、次の5点について検討し活用する。

1. 社会のニーズに対応するため、新設学科の検討を行う。
2. 第一志望の学校に選ばれるため教育の質の向上を図る。そのため教員の業務負担の軽減、教育研修の実施、研究授業等に取り組んで行く。
3. 企業連携を強化し、地元企業で活躍する実務者に講義を行ってもらい、専門教育の充実を図る。
4. 教職員がコンプライアンスの大切さを理解し、学校ハラスメント防止に徹底した取り組みを行う。
5. 教職員の満足度調査を引き続き実施し、問題点の洗い出しを行い、満足度向上を目指す。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社)	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	卒業生/企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 専務理事	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	地域関連
山本 哲志	株式会社フジ・メディア・テクノロジー 管理センター 総務部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 取締役 マーケティング戦略室 室長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
矢野 俊宏	株式会社田中建設 取締役 営業本部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務局長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: [URL:https://www.neec.ac.jp/public/](https://www.neec.ac.jp/public/)

公表時期: 令和6年9月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、令和5年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: [URL:https://www.neec.ac.jp/public/](https://www.neec.ac.jp/public/)

公表時期: 令和6年9月30日

授業科目等の概要

(工科技術専門課程 ロボット科)															
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○		ビジネススキル1	社会人として必要な、ビジネス文書の書き方、行動・人間関係の構築、仕事への態度・心構え、知識・資料の活用などについて学習します。	1・前	30	2	○			○	○			
2	○		ビジネススキル2	就職に必要なマナーや一般常識などを学び、就職活動への準備をするとともに卒業後の進路について考えます。	1・後	30	2	○			○	○			
3		○	キャリアデザイン1	就職活動への準備をするとともに卒業後の進路について考えます。また、品質管理検定やビジネス能力検定などの資格を取得できる知識を身につけます。資格取得やボランティア活動などを単位認定します。	1・通	30	2	○			○	○			
4	○		パソコン実習	社会人として欠かすことのできないコンピュータスキルを学びます。WindowsやOfficeの使い方、インターネット利用上のマナーなどについて学びます。	1・前	60	2			○	○	○			
5		○	スポーツ実習1	スポーツを通じ身体を鍛え人間力を高めま す。また、マナーや協調性などの社会的スキ ルの向上を目指します。	1・通	30	1			○	○	○			
6	○		ロボット入門	ロボットの全般、特に機種、特徴について学び ます。	1・前	30	2	○			○	○			
7	○		エレクトロニクス1	ロボットを動かすために必要な、エレクトロニ クス技術について学びます。直流回路や交流回 路、静電気など基本技術を学びます。またトラ ンジスタやICなどの半導体技術についても学 びます	1・前	30	2	○			○	○			
8	○		エレクトロニクス2	エレクトロニクス1をベースとしてロボットを動 かすために必要な、エレクトロニクス技術につ いて学びます。直流回路や交流回路、静電気 など技術を学びます。またトランジスタやICな どの半導体技術についても学びます	1・後	30	2	○			○	○			
9	○		デジタル回路	ロボット制御の基本となるデジタル技術、2進 法や論理回路などについて学びます。	1・前	30	2	○			○	○			
10	○		メカニクス1	ロボットの設計や製作に必要な、機械や材料 の基礎知識を学びます。	1・前	30	2	○			○	○			
11	○		メカニクス2	メカニクス1をベースとしてロボットの設計や製 作に必要な、機械や材料の知識を学びます。	1・後	30	2	○			○	○			
12	○		プログラミング1	ロボットへの動きを指示するコンピュータプロ グラム(ソフトウェア)の基本から、その考え 方、作り方について学びます。	1・後	30	2	○			○	○			
13	○		マイコン1	ロボットやさまざまな機器を自在にコントロ ールするために使われているマイクロコンピュ ータの基礎について学びます。	1・後	30	2	○			○	○			
14	○		機械製図	ロボット製作に欠かすことのできない設計図の 読み方や書き方を学びます。	1・前	60	2			○	○	○			
15	○		3D-CAD実習1	ロボットや機械の設計に欠かすことのできない 3D-CADソフトの使い方や応用方法について 実習形式で学びます。	1・後	60	2			○	○	○	○	○	
16	○		テクノロジー実習1	ロボットや機械の仕組みや製作法を理解する うえで必要になる「ものづくり」の基礎技術を実 習形式で体験的に学びます。	1・前	90	3			○	○	○			

(工科技術専門課程 ロボット科)														
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法		場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	
18	○		ロボット製作実習1	ロボットの設計をしたり、創る場合に必要な基礎技術について実習し、機械加工や電子回路組み立てなどを体験します。	1・後	90	3			○	○	○	○	
17	○		テクノロジー実習2	テクノロジー実習1をベースとしてロボットや機械の仕組みや製作法を理解するうえで必要になる「ものづくり」の基礎技術を実習形式で体験的に学びます。	1・前	90	3			○	○	○	○	○
19	○		ロボット制御実習1	ロボットを動かすために必要なコンピュータやプログラムの基礎について実習形式で体験的に学びます。	1・後	90	3			○	○	○	○	○
20		○	ロボット応用実習1	ロボットやものづくりに関する総合的な実習として、企業連携プロジェクトやロボット競技会へ向けた活動、インターンシップ(企業実習)、展示会見学などを単位認定します。	1・通	30	1			○	○	○	○	
21		○	ロボット応用実習2	ロボット応用実習1をベースとしてロボットやものづくりに関する総合的な実習として、企業連携プロジェクトやロボット競技会へ向けた活動、インターンシップ(企業実習)、展示会見学などを単位認定します。	1・通	30	1			○	○	○	○	
22	○		プレゼンテーション1	面接試験対策など、就職活動で必要になる自己表現力を身につけるために必要な事柄について学びます。	2・前	30	2	○			○	○		
23	○		プレゼンテーション2	社会人として必要な知識や自己表現力を学びます。面接試験対策など、就職活動で必要になる事柄について学びます。	2・後	30	2	○			○	○		
24		○	キャリアデザイン2	就職活動への準備をするとともに卒業後の進路について考えます。また、品質管理検定やビジネス能力検定などの資格を取得できる知識を身につけます。資格取得やボランティア活動などを単位認定します。	2・通	30	2	○			○	○		
25		○	スポーツ実習2	スポーツを通じ身体を鍛え人間力を高めます。またマナーや協調性などの社会的スキルの向上を目指します。	2・通	30	1			○	○	○		
26		○	二足歩行ロボット1	二足歩行ロボットを中心に、最新ロボットを実現するのに必要な技術や、創るための技術について学びます。	2・前	30	2	○			○	○		
27		○	二足歩行ロボット2	二足歩行ロボット1をベースとして二足歩行ロボットを中心に、最新ロボットを実現するのに必要な技術や、創るための技術について学びます。	2・後	30	2	○			○	○		
28	○		ロボット技術1	ロボットやさまざまな機器に使われているセンサーの基礎と周辺技術について学びます。	2・前	30	2	○			○	○		
29	○		ロボット技術2	ロボットやさまざまな機器に使われているアクチュエータ(モーターなど)の基礎と周辺技術について学びます。	2・後	30	2	○			○	○		
30		○	メカニクス3	ロボットの設計や製作に必要なメカの基礎と応用について学びます。	2・前	30	2	○			○	○		
31		○	バイオロボティクス	生物の動きのしくみと、それを実現する方法を学びます。	2・後	30	2	○			○	○		



(工科技術専門課程 ロボット科)														
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法		場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	
32	○		ロボット制御1	ロボットを正確に安定して動かすための技術について学びます。	2・前	30	2	○			○	○		
33	○		ロボット制御2	ロボット制御1をベースとしてロボットを正確に安定して動かすための技術について学びます。	2・後	30	2	○			○	○		
34	○		プログラミング2	プログラムを応用してロボットを動かす方法などについて学びます	2・前	30	2	○			○	○		
35	○		マイコン2	ロボットやさまざまな機器に使われているマイコンの応用について学びます。	2・後	30	2	○			○	○		
36		○	人工知能	ロボットなどに使われる人工知能全般と、しくみについて学びます。	2・後	30	2	○			○		○	
37		○	パーソナルロボット	産業用ロボットではなく、福祉・医療分野やビジネス分野におけるロボットの現状や将来について学びます。	2・後	30	2	○			○		○	
38	○		ロボット製作実習2	ロボットの設計をしたり、創る場合に必要な基礎と応用技術について実習し、実際にロボットを製作します。	2・前	90	3			○	○	○	○	
39	○		ロボット製作実習3	卒業製作としての位置付けで2年間の学習の総まとめとして、高度な機能を持ったロボットの設計と作り方について実習し、実際にロボットを製作します。	2・後	90	3			○	○	○	○	
40	○		ロボット制御実習2	ロボットを動かすために必要なコンピュータやプログラムの基礎と応用について実習します。	2・前	90	3			○	○	○	○	
41	○		ロボット制御実習3	基礎を身につけた上で、より実践的な技術、ロボットを動かすプログラムなどについて実習します。	2・後	90	3			○	○	○	○	
42	○		3D-CAD実習2	3D-CADを使ってロボットや機械を設計する手法について、さらに詳しく実習形式で学びます。	2・前	60	2			○	○	○	○	○
43		○	ロボットコンテスト	自分たちで作製したロボットを用いて競技会を行います。	2・後	30	1			○	○	○		
44		○	ロボット応用実習3	ロボットやものづくりに関する総合的な実習として、企業連携プロジェクトやロボット競技会へ向けた活動、インターンシップ(企業実習)、展示会見学などを単位認定します。	2・通	30	1			○	○	○		
45		○	ロボット応用実習4	ロボット応用実習3をベースとしてロボットやものづくりに関する総合的な実習として、企業連携プロジェクトやロボット競技会へ向けた活動、インターンシップ(企業実習)、展示会見学などを単位認定します。	2・通	30	1			○	○	○		
合計					45	科目		1950時間		単位(単位時間) 91単位				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要 卒業時に必修科目1500時間(68単位)および選択科目210時間(8単位)以上取得し、件: 合計1710時間(76単位)以上取得すること。	1学年の学期区分	2期
履修方 1年次は必修840時間以上、また選択科目を履修すること 法: 2年次は必修660時間、選択科目150時間以上履修すること 上記のほか、1年次および2年次の選択科目から60時間以上履修すること	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。